

2S-3

# テレターミナルを用いた 行先情報管理システムに関する検討

加藤 誠巳 小倉 康夫 増田 卓也 毛利 秀之  
(上智大学理工学部)

## 1 まえがき

大学の研究室で院生、学生等が現在どこにいるかという情報は通常は行先表示ボードを利用していることが多い。しかし、これを変更するためにはわざわざボードのある場所まで行かなくてはならない。たとえば外出した後帰宅するときなど、行先表示ボードを”外出”にしておいて帰宅した後ボードの表示が変更できれば大変便利である。本稿ではこのような行先情報をテレターミナル（無線パケット通信）とパソコンを利用して分散して設けられた複数の行先情報表示端末を遠隔的に変更、操作することができるシステムを開発したので報告する。

## 2 システムの概要

### 2.1 システムの構成

テレターミナルとは無線パケットを利用してデータ通信を行う通信システムであり、ここでは以下の2種類のテレターミナル端末を用いて全体のシステムを構成した。

- 無線モデム端末

据置型のテレターミナル無線モデムでRS-232C端子を通してパソコンに接続して使用する。制御方法は、一般的なモデムコマンドであるATコマンドを用いてパソコン側で行う。すべての情報はパソコンのディスプレイに表示されるため、情報を一覧することができる。（図1）

- メッセージ

携帯型のテレターミナル端末で、液晶タッチパネルをペンを用いて操作する。手書き文、定型文や図形情報の送受信およびメールの送受信、FAXの送信などが可能であるが、本システムでは現在のところ文字情報のみを使用している。容易に持ち運びができるため、どこからでも情報の変更ができる。情報の変更についてはセンターのメールボックスを利用する。（図2）

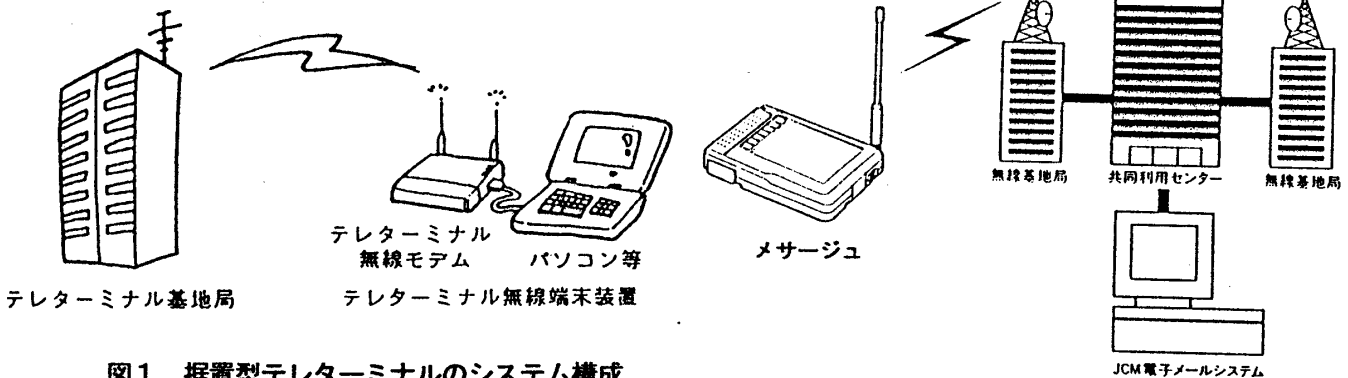


図1 据置型テレターミナルのシステム構成

図2 メッセージのシステム構成

## 2.2 システムの動作手順

パソコン上のプログラムの動作手順を以下に示す。

1. プログラム起動時にテレターミナル端末の初期化を行い、通信ポートをオープンする。
2. メインウィンドウに全員の学年、氏名、行き先を表示する。また、個人情報ウィンドウに個人のすべての情報を表示する。
3. "行き先"の欄を選択すると行き先表示ウィンドウが開き、その中から行き先を選択する。コメントを入力したいときは個人情報ウィンドウから直接入力する。
4. 選択、入力が終了すると、自動的に相手先のテレターミナル端末に接続、送信を開始する。相手先はオプションの中の"接続端末情報ウィンドウ"から選択できる。
5. 任意のATコマンド、文字列を送るときは"送受信情報ウィンドウ"を開いてテキストボックスに入力する。

メッセージからの情報はメールとして共同利用センター内に設けられたテレターミナルのホストである"テレターミナルEMS"の中のメールボックスに蓄えられる。パソコン上のプログラムは一定時間ごとに自動的にテレターミナルEMSに接続し、メールボックス内のメールを取り出す作業を行う。取り出した情報はプログラム内で解析してメインウィンドウ上に表示する。

## 3 むすび

テレターミナルシステムの利用法の1つとして、無線モデム端末と携帯テレターミナル端末であるメッセージを用いた行き先表示システムについて述べてきた。

最後に、機材提供等御援助いただいた日本シティメディア株式会社ならびに有益な御討論を戴いた本学マルチメディアラボの諸氏に謝意を表す。

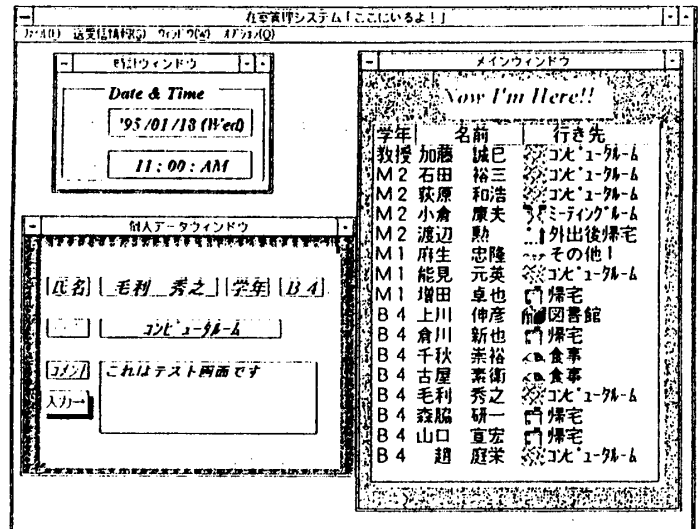


図3 行き先表示システムの画面例

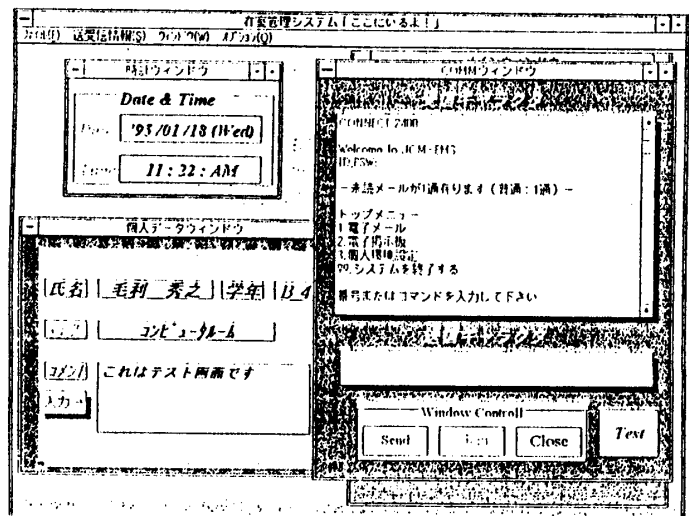


図4 メールボックスへの自動接続時の画面例

## 参考文献

- [1] 日本シティメディア株式会社: "専用端末間及びテレターミナルEMS-専用端末間インターフェイス仕様書", (1994).
- [2] 日本シティメディア株式会社: "テレターミナルEMS PC 端末利用者マニュアル", (1994).